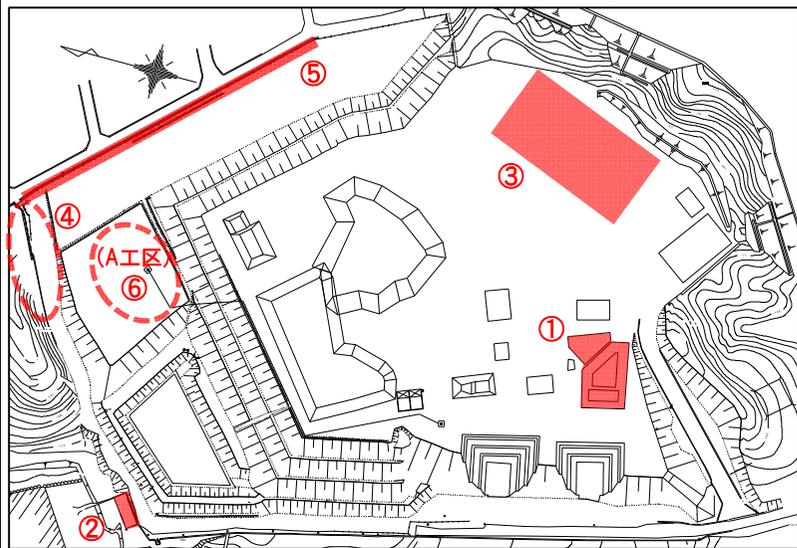


# 《旧RD最終処分場二次対策工事 工事情報 第48号 をお知らせいたします》

作成日：平成27年1月19日

日付	施工実績							施工予定													備考	
	平成27年1月														2月							
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		日
工種・作業内容	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	
廃棄物土・有害物掘削工																						
①選別土仮置・盛土工 一次対策仮置土選別																						
②仮設備工 構造物撤去工																						
③選別処理施設工 機械設置工																						
汚染地下水拡散防止対策工																						
④鉛直遮水壁工 TRD工法																						
⑤仮設備工 防音壁																						
⑥事前調査ホーリング工 A工区																						

## 【工事施工予定位置図】



## 【工事施工状況写真】

撮影日：平成27年1月16日



② 構造物撤去工

工作物等の基礎撤去を行っています。



③ 選別処理施設工

施設内にて選別機械を設置しています。



④ 鉛直遮水壁工

鉛直遮水壁工の施工が完了しました。TRD機を解体し搬出しています。

## 【お知らせ】

・ 1月29日(木)に第11回連絡協議会を開催します。

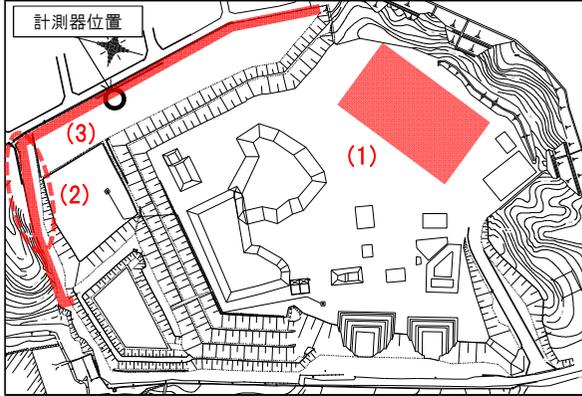
# 《騒音・振動・粉じん・臭気自動計測の週間結果報告》

(報告対象期間:1月9日~1月15日)

## 【概要】

二次対策工事による周辺環境への影響を調査するために、旧RD最終処分場と隣接する住宅地との境界に計測器を設置し、「騒音・振動・粉じん・臭気」を連続自動計測しています。  
各項目の1週間分の計測結果をグラフにしました。  
※網掛け部は休工の時間帯(休日および夜間)です。

## 【位置図】



## 【測定値管理基準】

	騒音	振動	粉じん	臭気
第1管理値	基準値の90%	基準値の90%	基準値の90%	10(センサー値)
第2管理値	基準値	基準値	基準値	参考値
基準値	85dB 栗東市の特定建設作業(騒音)に係る規制基準	75dB 栗東市の特定建設作業(振動)に係る規制基準	0.2mg/m <sup>3</sup> 環境省『大気汚染に係る環境基準』の「環境上の条件・浮遊粒子状物質」記載基準	10(硫化水素臭などの異臭) 草津市「臭気指数規制基準 第1種地域 敷地境界線(第1号)」記載基準

## 第1管理値を超過した場合

騒音 振動 粉じん	作業を一旦中断し注意喚起した後、警戒しつつ作業を行います
臭気	作業を一旦中断し、現場の監督員が直接臭いを確認します

## 第2管理値を超過した場合

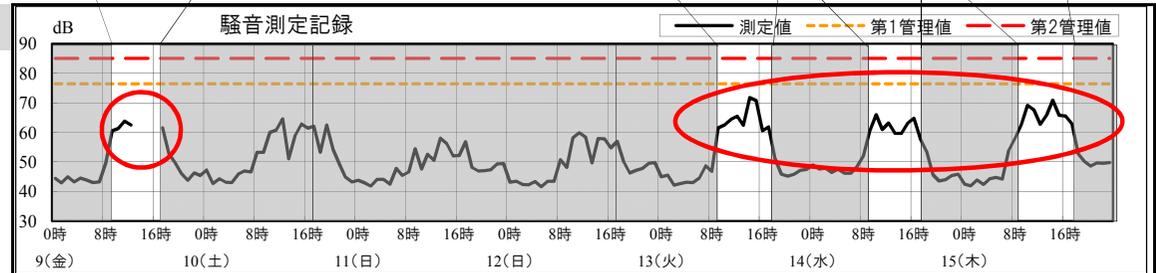
騒音 振動 粉じん	直ちに作業を中断し、周辺7自治会長に連絡し原因究明後、対策を講じ作業を再開します
臭気	臭いの確認により硫化水素臭などの異臭がした場合には、直ちに作業を中断し、周辺7自治会長に連絡し対策を講じたうえで作業を再開します

主な実施作業内容		平成27年1月					備考				
		9 金	10 土	11 日	12 月	13 火		14 水	15 木		
廃棄物選別工											
(1)選別処理施設工		機械設置					機械設置				
汚染地下水拡散防止対策工											
(2)鉛直遮水壁工	TRD工法	TRD工					TRD工				
汚染地下水拡散防止対策工											
(3)仮設備工	防音壁										

## 【騒音】

工事時間帯において、70デシベル(dB)程度の値となっているのは、現在施工中の「鉛直遮水壁工」の影響です。

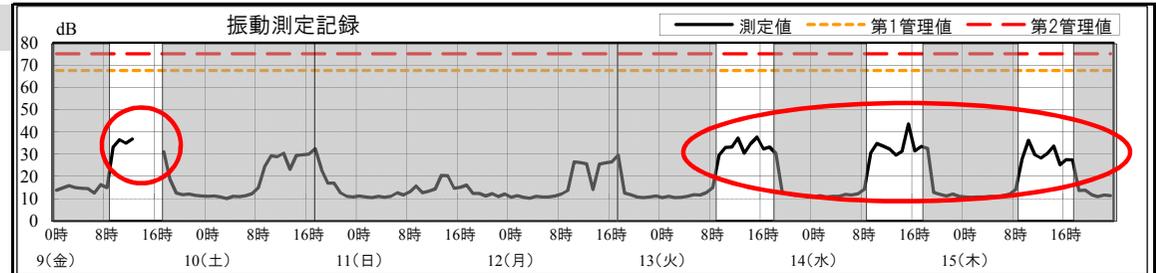
※9日13時~16時のデータ欠損について鉛直遮水壁工の施工中、移設していた計測器を元の位置へ復旧させたため、その間のデータが欠損しています。



## 【振動】

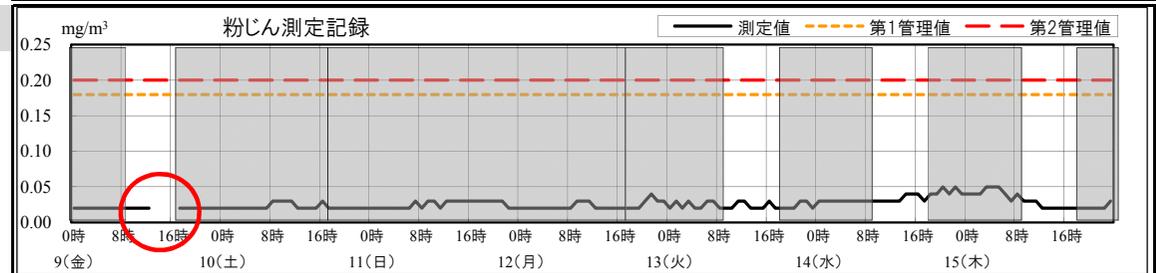
40デシベル(dB)程度の値となっているのは、現在施工中の「鉛直遮水壁工」の影響です。

(※欠損について上記のとおり)



## 【粉じん】

(※欠損について上記のとおり)



## 【臭気】

14日から15日にかけて値が緩やかに上昇していますが、現地において異常は見つかりませんでした。これまでの計測結果より、低気圧の通過に伴い南からの湿った空気が流れてくると値が上昇する傾向があるため、水蒸気が関係しているものと考えられます。今後、高い値を観測した際は、現地での調査と、天候との関係を注視していきます。

(※欠損について上記のとおり)

